

# 響流

HIBIKI

高田教区報

高田教区 教化テーマ

私はどこで生きているのか  
～たずねよう 真宗の教えに～

2021年4月23日 第151号



キッズふくしまの様子  
(撮影時のみマスクを外しています)

休養は

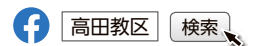
急げること

ではなく

気分転換

である

ベーデンパウエル



高田教区

検索

発行所 真宗大谷派（東本願寺）高田教務所  
上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913  
<http://www.takada-kyoku.jp>

発行 橘 秀憲  
印刷 永田印刷株式会社

# 珠数つなぎ法話

次回  
比後

今回  
渡邊

第2回  
藤島

第1回  
金子

リレー方式の珠数つなぎで  
法話をいただくコーナーです。

## 第3回 「何かちがう」

第1組 本立寺 渡邊 智子

「終活」という言葉がひろまっています。人生を終えるにあたっての活動という意味だそうです。私も時々一人暮らしの親の身の回りを片付けておくようにすすめています。思い出のつまった品々をのこされてもどうすればいいかわからないからです。

しかし、この終活はそれどころの話ではなくて、終活ノートというものに自分の口座番号、葬儀方法、知り合いの連絡先等々あらゆる個人情報を書き込んでおいて、身の回りの全てを始末しておこうということだそうです。それですっきり安心かどうかはわかりませんが、この終活をしようという人の気持ちは自分の好きにしたいという他に、とにかく他人に迷惑をかけたくない、子どもを困らせたくはないと、自分のことは自分でする人生最後の努力と言えるのではないかと思えます。

親鸞聖人はこの努力を「自力」のはからいと言われました。私たちは、この自力のはからいなしに生きていくことはできません。

例えば、寒ければ暖をとり暑ければ涼しいように、自分が生きやすいように努力をします。社会全体が努力を続けてきた結果、いろんなことが克服されてきて、織田信長の時代には「人間五十年…」と謡われた人の寿命は今では80歳を過ぎ、一体どこまで延びるのか想像できません。そんな昔と比べれば話にならないほど文明が進んだからですが、文明と同じく人も何でもできるようになったと誤解され、自力への要請が増えているような気がします。元気な間はもちろん、病気になっても高齢者になっても他人に迷惑をかけず、自分のことは自分で、人生の最後までちゃんと片付けておこうと、社会のルールが変わってきたのではないかと思えます。求められてくるのは救いではなく健康とお金と自力でしょうか。それが別に悪いわけではないのですが、何かちょっと違うような、親から終活ノートを手渡されるようなさみしさが残ります。ノートは書きかけでもいいのです。書いていなくてもいいのです。

親鸞聖人は、「自力の心をひるがえして弥陀にたのめ」とおっしゃいました。「本願他力をたのむ」と、自分の終活は一体終わりに何をたのむだろうかと思うと、この一番たやすいと言われた言葉が何故か一番難しいように思われます。

次回は第3組 大泉寺 比後 孝さんです。



一人一人に丁寧に教えていただきました



約90名の子もたちが参加しました

各ご寺院から寄付されたおやつの数々



## べっぴん寺子屋 書道の巻

(青少年連絡協議会主催)

2020年12月26日 高田別院にて

書道講師

山崎義成氏 (第13組 本敬寺)  
高橋良暁氏 (第3組 正光寺)

親鸞さまの御遠忌を「縁に始まった  
べっぴん寺子屋」も五回目となりました。  
一般の方がもたれていている敷居の高い  
お寺のイメージを払拭し「お寺は楽し  
いところ」「身近な利用しやすいところ  
」と気軽に立ち寄れる場所にしたいた  
い。そんな思いを胸に活動しています。そ  
してその積み重ねから、たくさんの方  
の心の支え「よりどころ」となれたら  
ありがたいなと考えています。  
青少年連絡協議会代表 岩崎 歩  
(第11組 専敬寺)



きょうりゅうじ  
響流寺のテラスさんが子ども  
の行事に遊びに行ってきました。  
どちらの行事も子どもたちの  
笑顔が輝いていました。



みんなが上達しました



## 児童冬の集い

(高田教区児童教化連盟主催)

2021年2月6日〜7日

池の平青少年センター、池の平温泉スキー場にて

子どもたちが自然に親しむことを  
通じて、遊んだり語り合ったりする  
場として開かれる「児童冬の集い」。  
コロナ禍で不自由を強いられている  
子どもたち。大人が安全に配慮しな  
がら開かれた場で少しでもココロと  
カラダを解放することができたで  
しょうか。

松村 弘  
(第12組 専徳寺)



朝夕はお勤め



夜は楽しい  
ゲーム大会

# じいさん と伝えれ!

掲

示

板

白鳥山 善念寺 編



門柱

・ 掲示板はいつからされていますか？

私の記憶がある頃（昭和50年）には不定期ではありましたが、北側の山門の内側にぶら下げられた黒板に法語などが書かれていましたので、それが掲示板の始まりだと思います。善念寺で宗祖親鸞聖人誕生八百年・立教開宗七百五十年・善念寺開寺七百年・現地移転三百五十年・本堂再建百年の記念慶讃法要を行った頃に、ご門徒さんより掲示板の寄付の申し出がありました。ちょうど境内裏側にあたる南側（現マクドナルド側）が商業地として栄え始めた頃でしたので、南側に掲示板を



山門

新設しました。その後、参道横に駐車場ができたことをきっかけとして、雁木通りに面した場所に新たに北側の掲示板を設置しました。

・ 掲示内容はどのくらいの頻度で更新されていますか？

寺報や毎月発行の『なむなむ』等を掲示することもあるので、基本的に月

・ 掲示板の内容、言葉はどのように選ばれていますか？

1回を目安としています。ただ、今年の冬は大雪もあって、3カ月ほど貼りっぱなしとなりました。

大まかですが、北側の掲示板は目の前で見られるので、寺報などじっくり読めるものを貼りだしています。昨年是一新した教区報『響流』を貼ったこともありました。一方、南側は道の向こう側から見られる方も多いので、文字数が少なく目につくものを選んでいきます。



北側掲示板



・ 掲示板を続けてきた中でエピソードがあればお聞かせください

南側の掲示板に「愛」と一字だけ掲載した際は、子どもが通う小学校の先生から「毎朝学校に通う車の中から見ているのですが、お寺の掲示板に『愛』と書いてあったのはびっくりしました。」とお話をうけたことがあります。



南側掲示板

① クイズのような掲示をしたこともありました。

	生 ↓	
死 →	※	← 老
	↑ 病	

②

	生 ↑	
来 ←	※	→ 死
	↓ 去	

この時には副住職の旧友から久々のメールや電話が来たようです。

また、「※に入る字を教えてください。」と若い女性が2人で（おそらく勇気を出して）お寺に尋ねに来られました。仕事帰りに待ち合わせて来られたのでしょうか。ご門徒でもない方が夕飯時にお寺に訪問されたことに驚きました。

日ごろは何の反応もないように感じていましたが、掲示板は多くの方が見られるのだということを実感したことです。



高田ではめずらしい土蔵造りの本堂

・ 掲示伝道における思い、工夫などをお聞かせください

まず、インパクトがあることです。その言葉を見て考えていただくことも大切ですので、自分自身の心に響いたものやメッセージ性のあるものを選びようにしています。

また、言葉はできるだけ日常で使う平易な表現であることに気をつけています。

・ 最後に

通るたびに気になる掲示板でしたが、やはり皆様にみてもらうための努力をされていたのですね。改めて掲示伝道の多様性と可能性、そして面白さを感じさせていただきました。（淀野）

白鳥山善念寺

新潟県上越市東本町3丁目2番51号  
TEL・025-523-5671

住職 滋野 康賢

今さら聞けない

知りたいこと

③

問

## 心境

私は、帰敬式で上山した班別の誓約で、「一日一度は、正信偈となえます」を実行しています。しかし、となえている最中に雑念がよぎっています。

何が足りないのでしょうか。

お寺さんが、儀式などでお経をとなえているときは、どのような心境なのでしょうか。

答

本山での誓いを大切にして「正信偈」のお勤めを毎日されておられ、「雑念」に悩まされていること、お勤めが習慣になっていることの証ですね。初めて「正信偈」を習った頃は、おそらく「間違わないように」や「ついていかなくては」などの思いが先行していたのではないのでしょうか。慣れていくに従い余裕が生まれ、「雑念」が気になり、他の人が意識され、比較し、戸惑っておられるように感じます。しかし「雑念」は感じ取る以前からあり、勤行の習慣化によって受け取れるようになっただけです。最初の頃の思いもまた「雑念」と言えます。

そう考えてみると「雑念」と一言にいつても、様々なものがあって「一所懸命やらなくては」だったり、「集中できていないな」と感じたり、「この言葉はこのことだったのか」という発見だったり、はたまた全く別のことを考えていたりすることもありますが、「雑念」と一言で片付けるには惜しい内容がそこには含まれていることもあるかと思えますので、一つ一つを観察してみたいかがでしょうか。さて、時には集中して読み切ったという感覚になることもあるでしょう。しかし問題は「雑念」があるうがなからうが、勤行に対しての価値判断が生まれてしまっていることです。「雑念」のなのお勤めが良く、そうでないお勤めはダメだと思ってしまうようですが、そんなことはあ

りません。勤行は行為者の意識がどうあれ、教えの言葉を発することであり、それを聞くことです。1回ごとのお勤めが浄土の表現であり、その声や姿が伝えてくるものがあるように思います。それを感じ取れないことの方が圧倒的に多くとも、声に出して念仏し、勤行することは浄土の表現に他ならないのです。私は「勤行は浄土の表現である」ということを信頼して臨みたいと思っています。

たけうちよしのり  
武内義範や信楽峻磨は、声に出して念仏することを諸仏のコーラスの中で一緒に歌うことと捉えました。勤行もまた諸仏のコーラスの中、一緒にお勤めしているのです。教えを伝えてくれた方々ともに学んでいる方、これから学ぶであろう人々、それらの諸仏と一緒に勤めしていると思うと勇気が出てきませんか？

「雑念」がよぎることで勤行が不十分だと思ふ必要はありません。それでも「雑念」の有無にこだわって自分も他人も見えてしまうことがあるかもしれませぬ。そのかわりに気付き、見つめるためにも、ともに念仏・勤行・聞法していきましょう。

図書

信楽峻磨『真宗学シリーズ① 現代親鸞入門』法蔵館

2010年

NHK『哲子の部屋』制作班 國分功一郎監修『哲子の

部屋I 哲学って、考えるって何?』河出書房新社

2015年

第3組 安専寺 老野生 信

悦

# キッズふくしま

福島県在住 鈴木 悦子

東日本大震災、福島第一原発事故、あの日から10年が経ちました。今回初めて参加した息子は当時4カ月、姉が7歳と5歳。10歳になった息子は元気に育っています。

子どもたちの成長は早いものです。あれから10年、ニュースや報道を見ていても、原発の状況は良くなっているのでしょうか？ 周りばかり、見えている、見せている所ばかりがきれいに整備されていて本当のことは見えてこない様な気がしていて、原発や放射能というキーワードには不安しかありません。

この10年間、放射能汚染による子どもたちへの影響をできるだけ少なくなる様に自分なりに勉強し情報を集めながら生活してきました。

低汚染地域で過ごすことが良いと知り、長期、短期と時間がある時には保養へ出ていました。それが昨年からはコロナの影響により遠方へ保養することができなくなり

ました。

外出自粛と言われ、子どもたちと家に引きこもっていると、震災当時と同じで放射能が怖くて外に出ることができなく家の中で過ごしたことと同じ状況だったと考えていました。

そんなコロナ禍の中、震災も10年過ぎた時に今回のキッズふくしまスプリングキャンプに参加できたことをうれしく思います。まだ、福島の子どもたちを思っていてくれる人たちがいると思うととても励みになります。

キャンプから帰宅した息子はたくさん話をしてくれました。「夜も眠れないくらいに楽しかった!!」と聞いて、私の心配はムダだったんだと気がつき、息子の成長を感じました。

色々な方の名前が出てきて、「一緒に勉強した。一緒に遊んだ。なぜかしてくれました。」などたくさんスタッフの皆さんに囲まれて4日間過ごした様子がわかりました。

「ご飯もおいしくて、家で食べれないサラダやトマトも食べれた!!」とうれしそうに話してくれました。

コロナで1年以上保養へ出れていなかった

たので少しの期間でも汚染のない所へ行けて、少し安心していきます。

こんな状況の中に子どもたちを受け入れてくださりありがとうございます。

息子にとって雪で遊んだことは貴重な経験だと思います。春休みに良い経験をさせて頂きました。

そして支援して頂いた皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました。



夜のレクリエーション



夕食の様子



アイスクリームづくり



# 門徒仏々 言いたい放題

③

日本に仏教が伝来した後も「続日本紀」では、歴代天皇は崩御すると土葬された。従って身分の低い一般人も、当然に土葬が基本だった。儒教では遺体を傷つけることが罪で火葬が忌避されていた。古代日本で疫病が蔓延したため、火葬が広がった。天皇で初めて火葬された持統天皇は、夫の天武天皇と共に律令制度の確立に力を尽した。

一方、仏教では釈迦自ら火葬を言い残した背景には、釈迦の教え「空」の思想があった。仏教の「空」の教えは、「般若心経」によって知られる。日本人の最も好きな「般若心経」だが、他にも「空」を説く「維摩経」がある。

病床に臥す維摩居士のもとに文殊菩薩が見舞いに訪ねてくる。ところが、部屋には何もなく、維摩居士ただ一人がそこにいたという。古典落語の「書割盗人」と重なる。金銭欲・物欲・色欲・名譽欲の様々の欲望に固執しないで生きれば、悩みが減るといふ考えである。仏の教えは慈悲と平等であるが、煩惱の塊である人間の世界では、仏教の慈悲と平等を実現する思想に「空」を説いた釈迦。インド生まれの釈迦が仏教で「空」を説く一方で、数字の「0」を発見した古代インドの数学は、ノーベル賞に値する。宇宙開発の技術も「0」があつてこそ。記号の「0」は数の表記で空位を表す。ゼロは数とみなされていない。自然科学分野は「0」の存在で恩恵を受けている。

何故、人間の心の世界にも、数学の「0」に匹敵する価値基準が全世界に広がらないのか不思議だ。仏教の「空」の宗教観

が人間の心に浸透していくことを願わずにはおられない。

数字の「0」の概念は定義である。仏教の「空」は一切の概念を超越している。少年期に学校のテストで算数が0点だった。無邪気な少年は答案を全く気にせず、家に帰る。

算数の評点をみた両親からは「0」を「空」に理解してくれるほど甘くはなかった。

子ども心にも「空」の不条理に対して、門徒仏々言いたい放題を捲し立てる。

酒吞童子







## 愚僧のつぶやき

### 〈真宗の葬儀編⑪〉

さて、納棺が済みますと、通夜となります。本来、通夜とはその名の通り、夜通し灯りを消さずに、ご遺体を見守ることとあります。古くは、葬儀までの数日間、行われていましたが、後には葬儀前夜にご遺族が、夜通し灯明と線香の火を絶やさないう様になりました。現在では、通夜といえば通夜勤行を指すことが、多くなっています。葬儀前夜の6時〜8時頃に僧侶を招いて勤行して頂き、ご遺族、近親者、一般弔問者が焼香する仏事があります。浄土真宗におきましては、この通夜をご縁として聞法の座とすることが願われてきたことであります。

私の父は、私が小学校5年生の時に、

急な病で亡くなりました。そのお通夜の席で、当時、父が勤めておりました真宗大谷派札幌別院のご輪番が、私たちにこう語りかけて下さったんです。「君たちのお父さんは、姿形は見えなくなってしまうけれども、いつだって君たちのそばに居て下さっているんだよ。でも、どうしてもお父さんに会いたくて会いたくてどうしようもないその時には、南無阿弥陀仏を称えなさい」と。私、それからピタッと涙が止まったのを覚えているんです。勿論、南無阿弥陀仏の意味など分かるはずがありませんが、今思えば子ども心にも、またお父さんと出会ってゆるる世界があることを感じたんだろうと思います。そして、その時以来、私には一つの問いが与えられました。「南無阿弥陀仏とは何ぞや、南無阿弥陀仏とは何ぞや」と。

その後、南無阿弥陀仏とは、阿弥陀様

が迷い苦しむ私に「我をたのため、必ず救う」と呼びかける声であると教えられました。そして、その呼び声が私の信心となり、「阿弥陀様におまかせします」と帰依する声となるのだとお聞かせ頂いたこととあります。更にその声は同時に、仏様とられた亡き人が、「阿弥陀様のため、南無阿弥陀仏を称える身となってくれ」と願い続け、はたらし続けて下さっている声として聞こえて参ります。だから、私が南無阿弥陀仏を称える時、いつも亡き父と出遇ってゆけるのだと、嬉しく思うことがあります。

浄土真宗における通夜とは、単に亡き人と今生のお別れをする儀式ではなく、亡き人に導かれ、阿弥陀様のお心と出遇い、亡き人を仏様として出遇ってゆくことを願う尊い仏事であります。

合掌 称六字

ペンネーム 維摩教信



**第8組 明岸寺 法隆 光昭**  
 1月17日、世間は「阪神震災の記憶を風化させん」と力み返る。  
 諸行無常に逆らう、大御苦勞なことだなあ、といつも感嘆する。  
 死なん教訓も大事だが、明日死ぬぞ、と決まれば今すぐ念仏相続。ナマンダブ、ナマンダブ、…。

**第4組 養性寺 内山 真明**  
 4組は前号でお知らせした社会問題の動きの他はありません。  
 2021年になり今年はどんな年になるのか色々と思うところはありますが、多くの方々がお寺に集まり膝を突き合わせお互いに安心して話ができる年になればいいなと個人的に思っています。

**第11組 光圓寺 竹内 淳一**  
 信に死して願に生きよ。  
 我が座右の銘(命)ですが、寺のHPの通り、しばらく『歎異抄』第九章の問題をみて参りました。日ごろのこのころの我々、頑張るけれども往生は疎か一事も喜べぬばかりの生存、という機の深信。身心が破られ切つて初めて参り出遇つていく、歎喜勇躍する希望と信頼に満ちた法の深信。  
 二種深信から愈々、信心如来の願心から開かれるはずの仏土の諸相への肉迫、及び、生存世界への還相ということが、生まれて参りましょう。回心信心とは、願に生きる使命をいただく。

**第5組 聴信寺 居多 啓**  
 怒りは棄て同いでず、  
 怒って相手に  
 糞を投げて  
 自分の手だけ  
 糞にまみれる。  
 怒ると自分が  
 汚染されるのです。  
 直江津にある  
 曹洞宗の寺院、  
 龍泉寺さんの若  
 院さんが書かれ  
 た掲示板です。

**第1組 光照寺 梅澤 謙吾**  
 年明けから半月ほど除雪に明け暮れました。作業の大半は駐車スペースを確保するためです。これをやめてしまえば随分楽になります。便利が便利であるための要件などということをもふと考えてしまいました。

**第12組 善立寺 山越 英隆**  
 昨年暮れに、リモート講座(帰敬式講座)なるものに初めて参加しました。  
 今はやりのZoomです。結構、便利で、面白かったのですが、気になっていた背景は、カーテンでしごきました。  
 時代と価値観が大きく変わってゆく兆しを感じております。

**第6組 福成寺 鎮西 広円**  
 去る2020年12月17日に高田別院を会場に、6組教学研修会が行われました。講師に藤島直氏をお呼びし、「政治の問題と真宗」を講題としてお話しされました。  
 コロナ禍ということもあり、参加者は少なかったのですが、真宗の問題を考えるのも大事であるけれども、社会問題等を考えずして真宗の問題を考へることは出来ないのだということを改めて感じました。

**第2組 常圓寺 鈴井 祐恭**  
 新型コロナウイルス騒動で始まり感染拡大で終わった昨年。新しい年は、緊急事態宣言の発令と引き続きこの問題から始まりました。ワクチンの効果に期待しつつ今しばらく三密回避とマスク手洗いの日々ですが、今年もよろしくお願いいたします。

**第13組 福浄寺 井上 立英**  
 1月7日の夜から降り出した雪は自分にとって初めて体験する豪雪でした。  
 道路の除雪も間に合わず、また自坊の除雪に追われ、なかなか車も出せず月参りも断念せざるを得ない状態になりました。  
 人力を超えた自然の力に圧倒されるばかりでした。

**第7組 願生寺 平出 文勇**  
 去る1/29(金)1/30(土)に新井いきいきプラザにて願生寺坊守が代表を務める「あいあ食堂」のフードパントリーが開催された。  
 コロナ禍で子ども食堂を休止せざるを得なくなり、寄付された食材などを無駄にたくないという思いから、妙高市内のひとり親家庭に届ける活動を昨年より3回行っている。  
 今回は雪の問題もあり、会場を設け各家庭より取りに来ていただいた。この活動に組内の坊守さん数名も加わられたことにより、市内の企業や個人のみならず御門徒からの寄付も多数集まり、参加された親子からは「コロナで経済的に不安で、人との交流も少ないのでうれしいです」との喜ぶ声が聞かれた。

**第3組 正光寺 高橋 良暁**  
 12月26日に高田別院で寺子屋が行われました。コロナ禍のなかで子供たちが集まってくれるか心配しましたが、約90名の参加があり大盛況でした。本堂では約50名が、書道の書き初めを行いました。阿弥陀様の見守るなかで一字一字真剣に書いていました。





## とくとど研修会に参加して

第2組 乗雲寺 渡邊 悠生

僕は、とくとど研修会で正信げやぶつせつあみだ経を習いました。せつぶの読み方や音の上げ下げを教えてもらいながら読みましたが、なかなかうまく読めなくてむずかしかったです。

でも、練習するたびに読めるようになってきたし、お寺の友達もできたので良かったと思います。

まだまだ練習して、8月のとくとど式にのぞみたいです。

## 得度研修を受けて

第6組 西光寺 豊島 智子

さり気無くされているご住職がたのご法務が如何に大変かと窺い知ることが出来ました。

「コール29」と共に過ごした仏教讃歌の美しい「旋律」と「ことば」は私にわかりやすく語りかけてくれました。

今、拙いながらも「お経」という大切な門の入口に立たせていただきました。讃歌とは違う側面から真宗を教えていただくことを楽しみに、もう少し歩んで参りたいと思います。

所長様、ご指導下さった皆様ありがとうございました。

### 【第4回門徒研修会】

## 日ごろ思っていることを言葉にしてみませんか

— 門徒がお寺に期待すること コロナ禍の1年を振り返って —

**日時** 2021年5月18日(火) 13時30分(受付13時より)

**講師** 鷲尾 祐子氏

(三条教区教化委員会「女性研修会」部門副幹事・  
三条教区第13組善行寺坊守)

**会場** 高田別院お食堂

男女ともに、どなたでもご参加いただけます。

定員50名(申し込み順) 5月10日(月)まで

**主催** 真宗大谷派高田教区共同教化部門

**お問い合わせ先** 高田教務所(松岡)

電話 025-524-3913

写真家が伝授するデジカメ・スマホの撮影のコツ  
寺報やSNSにすぐに活かせます

## 映える！ 伝わる！ 写真講座

**日時** 2021年6月2日(水) 15:00~17:00(実技と講義)

**会場** 高田別院お食堂、境内など

**講師** 寺尾 昭人氏

上越市在住。上越市観光ポスター制作、『サクラ・花恋グア』発売など地域の魅力発信や地域経済の活性化を目的に精力的に活動している。

2015年「富士フィルム主催日本の桜フォトコンテスト」グランプリ受賞。

**募集人数** 20名程度(申し込み順)


**持ち物** デジカメ・スマホなど撮影機器

**主催** 真宗大谷派高田教区伝道広報部門

**参加申し込み、お問い合わせ先**

高田教務所(担当 中川)

電話 025-524-3913

お寺のまど   
さくえ トラメイシ



**みなさまの声をお聞かせください**  
『響流』に対するご意見、ご要望をお寄せください。また、各コーナーにご応募お待ちしております。高田教務所に設置した受付箱、または下記メールアドレスにて受け付けております。  
より多くの方に手に取っていただける教区報にするために皆様のご協力をお待ちしております。

高田教務所 (響流担当宛)  
takada@higashihonganji.or.jp

教区ホームページ連動企画『響流』～WEB版～

# ネットDE 仏教



インターネットといえばSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)と言われるほど、その利用者数は年々顕著になっています。お寺においてもSNSを活用しているところが増えているようです。今回は最も利用されているSNSについて紹介します。

今回の記事

第3回 SNSを活用しよう!

〈高田教区ホームページアドレス ⇒ <http://takada-kyoku.jp>〉



## 響流川柳

さあ ひごろのうつ憤を

川柳を作り

晴らしてみても

いかがでしょうか。

アクリルの 向こうに届け 坂東曲

【宏富】

コロナ超す 接待変異 つぎつぎと

【ゴチ満腹熟女】

川柳も 三密避けて デイスタンス

【酒呑童子】

触れ合いの 温もり欲しいが 今言えぬ

【喜縁】

## こもれび

今冬は、雪空を眺めて何度溜め息をついたのだろうか。容赦なく降り続く雪は道を閉ざし、人々の暮らしを脅かした。

一方、雪と対峙する時間を重ねるなかで、雪の魅せる美しさに心を奪われる瞬間もあった。雪の中からのぞく青色や日の出に染まった東雲色の雪山、積雪の造形美や澄んだ雪の匂い。疲れた心身を癒やしてくれたのも雪だった。

降る雪は何一つ変わらないのだが、それを感受する人によって好都合にも不都合にもなる。まったく自己都合なものである。そんな自分と向き合う機会にふれたのもまた雪であった。

(浅山)